

いよいよ新・倶知安中学校が開校します。
振り返ると昭和22年に倶知安町に5校の新制中学校が誕生しました。倶知安中、樺山中、瑞穂中、八幡中、寒別中の5校です。
その後、昭和54年に、適正配置計画によって、町内の中学校が倶知安中学校と新設・東陵中学校の2校となりました。そして、平成25年、両校が統合して、新・倶知安中学校が誕生します。

つまり、倶知安の多くの人々がそれぞれの中学校で学び、築き、継承されてきた輝かしい歴史と伝統が、いよいよ一つの学校に結集され、新たな一步を踏み出すということになるのです。

ですから、新しい中学校の生徒たちには、一生懸命に勉学やスポーツ、文化活動などに励み、町民の皆さまから愛され、応援されるような生徒になってほしいと願っています。



前・倶知安中学校
梶井 孝 校長

統合への思い

今年度から倶知安に中学校は一校になります。

町内に中学校が二校となってから、34年。一つの歴史が終わります。

倶知安中学校・東陵中学校両校の校長先生と生徒会へ伺い、それぞれが持つ統合への思いを取材しました。

前・東陵中学校
村井 満 校長



東陵中学校は、昨年度末日で34年間の歴史に終止符を打ちました。「終りよければすべてよし」といわれます。

最後の卒業生は、入学早々から本校の最後を飾る卒業生としての自覚を求められ、それに応えるべく仲間と共に切磋琢磨して確かな成長を見せてきました。特に最終年度は、閉校までの1年間を最後で最高の1年にし有終の美を飾ろうと、「凡事徹底、誇れる学校」を目指して全校生徒で努力してきました。

全道大会における野球部や陸上部等の大活躍、絵画や作文、書道展等における多数の入賞者など、華々しい活動はもとより、日々の学校生活も元気な挨拶と落ち着いた態度が学校全体に浸透していきました。本校最後の年度に花開かせた良き伝統は、旧倶知安中学校のそれと融合して、統合校においても必ずや貴重な礎となっていくものと確信します。

統合校が名実共に管内一の中学校に発展していくことを心よりお祈りしております。

～倶知安中学校生徒会～



しっかりと引継ぎを

「こんにちはわー」と俱中へ取材に伺った教室で、生徒会の人たちが元気よくあいさつしてくれました。生徒会長の桂野さんは統合について率直な気持ちを話しています。

「中学校が統合されて、今まで関わってきた人たちの他に、たくさん新しく接する人が増える不安はあるけど、統合後の生徒会で色んな活動をしたという期待もあります。

いまは朝早く学校の玄関に並んで、あいさつ運動もしています。他の委員や部活動の

人と一緒に行っていて、こうした活動も統合後の生徒会役員へしっかりと引き継いでいきたいです」

統合後の生徒会を担う一員として、しっかりとした目標を持っていました。

副会長の矢倉さんに話を聞くと、統合後の行事が心配とのこと。今まで両校でそれぞれ行ってきた球技大会が、統合後は人数が多すぎて一日で終了できない恐れがあるため開催が危ぶまれているそうです。また、体育大会の種目も減る可能性があるらしく、不安な面もあります。

ですが、コミュニケーション面では、現在ほとんどの部活動で、去年の秋～冬から、東陵中学校と合同練習をやっているのです、少しずつ名前を覚えたり、話したりはしています、多少は安心しています。

一から作り上げる体験

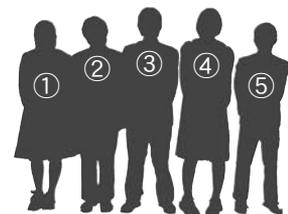
2校が1校になることに対して、不安はあるが楽しみだという意見が多く、会長は



「統合後は生徒の数が360人くらいに増えます。ですので、勉強や部活、学校行事に関しても、かなりエネルギーシユな活動ができるんじゃないだろうかと期待しています。

たしかに統合後は、行事ごとや人間関係など一から作り上げなければならぬことが多くなるかと思いますが、そうした経験ができることはむしろ貴重なことです。今の1・2年生や新入生にしかできないことなので、大切にしていきたいと思っています」と、統合を自分たちが成長する材料と考えていました。

- | | | | | |
|-----|------|----------|------|---------|
| 生徒会 | 会長 | ：桂野 水那さん | (2年) | ① |
| | 副会長 | ：清水目祐哉くん | (2年) | ② |
| | | 矢倉 咲和さん | (2年) | ④ |
| | 書記長 | ：工藤 大陸くん | (2年) | ③ |
| | 書記次長 | ：山下 大輝くん | (1年) | ⑤ |
| | 会計 | ：藤沢 歩くん | (1年) | (取材日欠席) |



～東陵中学校生徒会～

水飲み場とステージ



3月限りで校舎そのものが変わる東陵生。統合については、話はもちろん聞いていたけれど、強く意識するようになつたのは昨年の閉校式から。体育大会や球技大会などの行事がこの校舎で最後になってしまうという寂しさがだんだんとこみ上げてきました。今までの思い出の場所について聞くと、東陵中の生徒会には野球部員が多く、その一人の生徒会長・中村連人君は、

「グラウンド近くのトイレの水飲み場です。先輩が引退してからの、新チームになったはじめての練習が凄くきつくて、頭から水を被つてたのが印象に残ってます。他にも休憩中に、チームメイトと色々な話をしたのもその場所でした」

と感慨深げに話してくれました。他の生徒は、体育館のステージが特に思い出に残っていたようで、学校祭のとき、友人と一緒に『あたりまえ体操』を披露したことが、恥ずかしくなかったけど今ではいい思い出。

後志一の中学校を目指して

取材の最後に、生徒会長・中村さんに統合後の抱負を尋ねました。

「全校生徒の人数が増えることで、今までに無かった部活動が増えるかもしれないという話もあるので、生徒会としても提案できたらいいなと思います。」

また人数だけじゃなく、勉

強面、あいさつなど礼儀の面でも他の中学校の見本となるような、後志一の中学校を目指したいです」

取材後は生徒会の皆と、東陵中学校舎の中をめぐりました。現在、俱中へ引越し作業の途中で、廊下には段ボールがたくさん積み重ねられ、改めて統合を意識しました。卒業式に向けて吹奏楽部が教室で練習している中、生徒会室に行くと、「東魂」と書かれた幕や生徒会誌を手に取り、東陵で築かれた思い出を懐かしんでいました。



- 生徒会
- 会長 : 中村 連人くん (2年) ③
 - 副会長 : 大竹 晴哉くん (2年) ⑦
 - 滝谷 勇太朗くん (2年) ①
 - 書記長 : 前田 康多くん (2年) ②
 - 書記次長 : 佐藤 康平くん (1年) ⑥
 - 会計 : 表 凌二郎くん (1年) ⑤
 - 佐々木 大芽くん (1年) ④